

ふれあい歴史体験講座

実施日 7月26日(土) 管玉・丸玉作り
8月9日(土) 勾玉作り(午前のみ)
8月23日(土) ねんどはにわ作り
9月6日(土) 土面作り(午前のみ)
9月20日(土) 勾玉作り(午前のみ)
10月11日(土) 土笛作り

時間 9時30分～14時～(各回約2時間)

材料費 管玉・丸玉 1セット 260円
勾玉 1個 200円
ねんどはにわ 1個 210円
土面 1個 120円
土笛 1個 50円

定員 各回70名(先着順)

申し込み 電話でお申し込みください。
7月26日、8月9日開催分は受付中です。
8月23日開催分以降の受付開始日は市報や市役所ホームページ上でお知らせします。

勾玉作り教室

実施日 7月23日(水)・24日(木)

時間 9時～11時と13時～15時
※ 時間内に随時受付します

材料費 200円

申し込み 事前申し込みの必要はありません。受付時間内にお越しください。ただし、参加者多数の場合、お待ちいただくことがあります。ご了承ください。

子ども一日学芸員

実施日 8月20日(水) 9時30分～16時

内容 資料の整理やささまざまな催しの準備など、資料館の仕事を体験します。

対象 小学5・6年生、中・高校生

参加費 無料

定員 30名(先着順)

申し込み 8月6日(水)から電話で歴史資料館へお申し込み下さい。

ミュージアム・シアター

実施日 7月27日(日)
大友宗麟と西洋文化
まんが日本昔ばなし 「七夕さま」
「さだ六とシロ」

8月24日(日)
食文化 にっぽん洋食物語
まんが日本昔ばなし 「河童の雨乞い」
「イワナの怪」

9月28日(日)
京都洛中洛外
まんが日本昔ばなし 「耳なし芳一」
「月見の枝」

時間 13時～14時 **料金** 無料 **申し込み** 不要

特集展示解説講座

内容 講座室で特集展示「豊後大友氏と南蛮文化」についてスライドなどで解説したのち、展示室をご案内します。

日時 7月27日(日) 14時～15時30分

講師 歴史資料館職員

料金 講座のみの参加は無料。ただし、展示をご覧になる場合は観覧料が必要です。

戦争関係資料の提供のお願い

第2次世界大戦終結後、半世紀以上が経過し戦争を体験された方が少なくなるなか、戦争の実態を語る資料の消滅が危ぶまれています。

歴史資料館では、戦争にまつわる様々な資料を収集し、後世に伝えていく取り組みを行っています。市内在住の方で、戦時下の状況を捉えた写真や新聞・チラシ、また時代を証言する手記や資料、遺品などをお持ちの方がおられましたら、資料館までご連絡ください。



写真：千人針、勅諭勅語集、軍隊手帳、奉公袋

利用案内

■開館時間 9時から17時(入館は16時30分まで)
■休館日 第1月曜日の翌火曜日と第2～5月曜日(祝日の場合は開館)
祝日の翌日(土・日曜の場合は開館)
年末年始(12月28日～1月4日)

■観覧料 大人200円(団体150円) 高校生100円(団体50円)
※団体は20名以上、小中学生は無料
※特別展開催中は別料金となる場合があります。
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料。受付で手帳を提示してください。

■住所 〒870-0864 大分市大字国分960-1 TEL097-549-0880

■交通機関 JR久大本線 豊後国分駅下車
大分バス 国分新町ゆき 歴史資料館入口下車
大分自動車道 大分IC、光吉ICからとも約15分



大分市歴史資料館

OITA CITY HISTORICAL MUSEUM

ニュース

vol. 84
2008.7.19



大分市歴史資料館 特集展示
豊後大友氏と南蛮文化

7月19日(土)～10月19日(日)

ガビエル肖像画
『フランススコ・ガビエルの生涯』(1697年版より)

豊後大友氏と南蛮文化

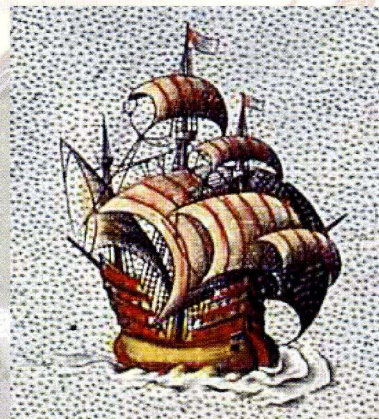
会期：7月19日(土)～10月19日(日)

種子島に鉄砲が伝来した2年後の1545年(天文14)、当時「沖の浜」とよばれた豊後府内の港にポルトガル人を乗せた中国船が入港しました。これが府内(現大分)と西洋との交流の始まりといわれています。以来、府内にはポルトガル商人が滞在するようになり、ポルトガル船も入港するようになりました。その後1551年(天文20)大友宗麟が山口で布教を行っていたフランシスコ・ザビエルを府内に招いたことをきっかけに、1553年(天文22)教会が建てられ、ポルトガル政府と正式に交易も行われるようになりました。そしてキリスト教をはじめとする西洋文化や陶磁器などの海外の珍しい品々が数多く持ち込まれ、いわゆる南蛮文化が府内に華開いていきました。

本特集展示では、こうした大友氏とポルトガルとの交流の歴史と、南蛮文化で彩られた当時の豊後府内の様子を紹介します。

豊後と南蛮との出会い

イエズス会の宣教師の書簡に記された大友宗麟の回顧談によると、1545年(天文14)彼が16歳のときに中国のジャンク船に乗ってポルトガル人の一行が豊後へ初めて来航したことが述べられています。種子島にポルトガル人が漂着し鉄砲を伝えた、その2年後のことです。回顧談には、彼らの持参した鉄砲で宗麟の弟晴英(後の大内義長)が誤って負傷したことや、宗麟自身がポルトガルの政治状況やキリスト教に強い関心を抱いたことが語られています。その後宗麟は、1551年(天文20)9月、当時山口で布教を行っていた宣教師フランシスコ・ザビエルを豊後府内へ招き、丁重に歓待したあと、府内での布教を許しました。この二人の出会いがきっかけとなり、豊後とポルトガル、いわゆる南蛮国との交流が本格的にはじまりました。



南蛮船図
ティセラ 日本図(1595年)より



華南三彩刻花牡丹唐草文六耳壺

大友氏の南蛮貿易

府内教会の建設をきっかけに、ポルトガル船が定期的に府内の港に来航するようになりました。「沖の浜」と呼ばれた府内の港には、聖書・聖画の宗教関係品をはじめ、生糸・絹織物・鉄砲・硝石・陶磁器、さらにはオルガン・ビオラといった楽器など、海外の珍しい文物が陸揚げされました。特に発掘調査では、中国をはじめ、朝鮮・タイ・ベトナム・ミャンマーなど海外産の陶磁器が大量に持ち込まれたことが分かりました。日本からは代わりに銀や刀剣・漆器・硫黄などが輸出されました。輸出品を代表するものの一つに、こんにち南蛮漆器と呼ばれる、時絵・螺鈿の技法を用いた花鳥図や幾何学文様を施した漆製品がありました。それらはヨーロッパ人の注文に応じて日本国内で生産されて大量に輸出されたもので、

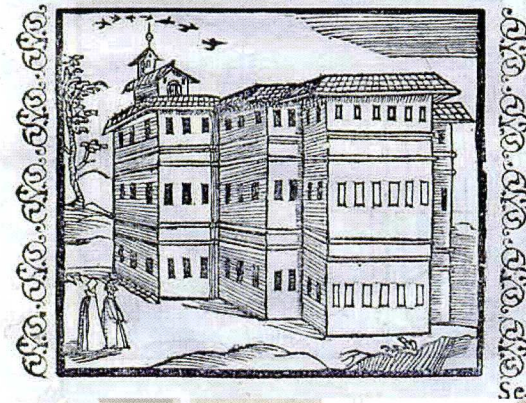


チェンバロ [復元] (16～18世紀)

英語のjapanの意味の一つに「漆器」があることから当時西洋諸国に与えたその影響の大きさがうかがえます。

大友宗麟の厚い庇護のもと、豊後府内で布教をすすめていたフランシスコ・ザビエルはいったんインドへ戻ることになり、約2ヶ月間におよぶ滞在を終えて1551年(天文20)11月府内の港から旅立っていきました。宗麟は、船出するザビエルに家臣を同行させ、司祭の府内への派遣とポルトガルとの交易を求めたポルトガル・インド副王宛ての書状を持たせました。これを受けて翌1552年9月、司祭のガゴ神父一行が府内へ到着し、インド副王からの鎧などの贈物を宗麟へ献上しました。宗麟は神父らに対して積極的に布教の保護・支援を約束し、府内の町に住居や礼拝堂を建設するための土地を与えました。1553年(天文22)6月、「豊後の慈悲の聖母の教会」と名づけられた府内教会が建ち、1556年(弘治2)に病院、1581年(天正9)には宣教師の高等養成機関であるコレジオも併設され、府内教会を中心にキリスト教をはじめ、西洋の学術・文化が豊後国内に広がっていきました。

Collegio della Compagnia di Gesù nella Città di Funai, nel Giappone.



府内コレジオ図『グレゴリオ13世伝』(1596年より)

MUNDO 南蛮

～この夏、Nambanが熱い!～

開催期間 平成20年 7月18日(金)
～平成20年10月19日(日)

16世紀後半、南蛮貿易都市として栄えた大分と長崎。この夏、大分では、大友宗麟ならびに豊後府内や長崎に華開いた南蛮文化に関するさまざまなイベントを開催します。

このイベントのひとつとして歴史資料館では「豊後大友氏と南蛮文化」の特集展示を行います。

下記の講座やシンポジウムと併せて、「MUNDO南蛮」をお楽しみください。

(「MUNDO」とはポルトガル語で世界という意味です)

7月18日(金)～10月13日(月)

企画展 よみがえる大分の遺跡展

大友宗麟とその時代ーキリスト教国を夢見た宗麟ー

場所 大分県立先哲史料館展示室

7月19日(土)～10月19日(日)

特集展示 豊後大友氏と南蛮文化

場所 大分市立歴史資料館

7月26日(土) 10時～16時

「FESTA NAMBAN(フェスタ南蛮)」

午前10時～12時 「南蛮の光と風」 ミニ・コンサート等

午前13時～16時 シンポジウム「キリシタン文化の諸相」

場所 大分県立図書館視聴覚ホール

7月27日(日) 午前の部・午後の部

午前の部 10時～11時30分

◎大友氏館跡 遺跡現地説明会

場所 発掘調査現場 顕徳町3丁目

午後の部 受付:13時30分～ 開会:14時

◎旅する長崎学連携講座 府内と長崎シリーズ①

「キリシタン文化 人物伝」

講師:五野井隆史(聖トマス大学教授)

飯沼賢司(別府大学文学部教授)

大石一久(長崎県文化振興課)

場所 大分銀行赤レンガ館2F大ホール

9月21日(日) 14時～17時

◎旅する長崎学連携講座 府内と長崎シリーズ②

「大分と長崎をつなぐキリシタンベルト」

講師:川村信三(上智大学文学部准教授)

鹿毛敏夫(国立新居浜高専准教授)

大石一久(長崎県文化振興課)

場所 大分銀行赤レンガ館2F大ホール

10月5日(日) 13時30分～16時15分

大友氏遺跡フェスタ2008

大友氏館跡発掘調査10周年 記念シンポジウム

「ここまでわかった! 豊後府内と大友館」

場所 大分銀行赤レンガ館2F大ホール